

信篤 (SHINTOKU)

市川市議会議員

松永おさみ

い ち か わ

後援会だより

第38号

事務所 原木 1-22-16

電話・FA X 047-327-1470

www.matsunaga.o.net

9月議会

## クリーンセンター延命化 工事費 五四億六千万円

市川市議会九月定例会は、三日に開会され十月七日迄の三十四日間にわたり開催されました。今回は、決算審査と国体開催に合わせ本会議を途中休会としたため、変則で長期間の議会となりました。今議会に市長から提案された議案は条例の一部改正案四件、補正予算案六件をはじめ、決算を含め合計二十件で、審議の結果は全て原案通り可決、認定されました。補正予算では、クリーンセンターの焼却施設が老朽化したことに伴い、向こう十年間使用する為の延命化工事を五十四億六千万円をかけて行うことが決まりました。市議松永おさみは、九月二十一日に一般質問を行いました。市側の考えを質しましたので、その概要をご報告いたします。尚、決算審査で松永は賛成討論を行いました。

## 二十一年度決算を認定 七十四億円余の黒字となる

市長から審査に付された平成二十一年度一般会計及び各特別会計才入・才出決算書、調書はともに関係法令に準拠し、正確であると監査委員の意見書で述べられています。

この内才入決算額から才出決算額を引いた差引額(形式収支)は八〇億二、七三九万円余となり、この形式収支から二十二年度へ繰り越すための財源六億七八八万円余を控除した額(実質収支)は七四億一九五〇万円余の黒字となっている。これらの黒字額は、今後の財政運営の貴重な財源となり、九月議会の補正予算の財源として、三十五億円余が充てられています。決算の特長として財政力指数は、一・一七で更に上昇傾向にあり、財源に余裕があることから引き続き普通交付税の不交付団体となっている。一方経常収支比率が八八・九ポイントと前年に比べ二ポイント悪化したことは懸念材料である。しかしながら人件費、公債費負担率は夫々前年に比べ好転したことは望ましい傾向であり、今後も引き続き適切な財政運営を図る必要があります。

## 千葉港・市川航路の整備は急務

海釣り施設を作って欲しい

質問「市川航路の浚渫整備の経緯と見通しについて伺う」

答弁「現状は幅員二百m水深六m程度の為、地元工業会は大型船から小型の船に小分けして運んだり、満潮時まで海上で待機する等の対応を余儀なくされている。県が二十一年度から浚渫事業を実施しており、二十二、二十三年度に本格的な浚渫を行うので、約二十六万mの土砂が発生すること。計画通りに進めば幅員二百m水深六・五mが確保され安全性、利便性が高まる。今後も引き続き港湾計画に基づき幅員二五〇m水深七・五mの整備実施を要望していく」

質問「塩浜の直立護岸整備の方向性について伺う」

答弁「県と市の協議が整い、昨年度から事業が進んでいる。整備費用として十億円程度かかる。その内市は三分の一を負担する考えでいる」

質問「親水性を高めるため、海釣り施設を作って欲しい」

答弁「塩浜一、三丁目の護岸で現に釣り人が来ている。現在、企業庁に移管を求めている東浜一丁目地先に、市川航路沿いに幅四、六m長さ三五〇mの突堤がある。ここは一部舗装され、手すりもあるので釣り桟橋としての利用は可能であると思うので、検討を進めてまいりたい」

## 横綱の顕彰碑建立について

質問「地元の声として、信篤地域出身の二人の横綱の偉業を称え、記念の顕彰碑を建立したいので、行政当局の物心両面からの支援、指導をお願いしたいかがか」

答弁「官民一体で顕彰碑を建立し、これを地域づくりのシンボルとして、又地域のモニユメントとして活用したいという地元の考えは良い提案と思うが、新たな補助金の創設は大変難しいと考える。所管部が四部に及ぶことから、庁内で調整を図る必要がある。要望や提案については、どのような形で実らせることが出来るか検討してまいりたい」

※横綱のプロフィール

◎第十四代 境川浪右衛門 明治九年 三十五才で横綱

◎第二十一代 若島権四郎 明治三十八年三十三才で横綱、原木出身

一七八〇m一一五Kg 在位十四場所 市内香取神社に肖像画あり



## 幼児教育の振興充実策について

質問 『公立幼稚園の今後の運営をどう進める予定か』

答弁 『今一度公立の置かれていた状況、公立の果たすべき役割、今後の幼児教育の在り方など整理を行い、具体策を講じなければならぬ時期であると認識している』

質問 『次世代を担う子ども達をどう育てようとするのか』

答弁 『本市では、家庭、地域社会、幼稚園・保育園等が相互に連携を図りながら、みんなで育てる心豊かな市川の子どもを基本理念に幼児教育の充実に努めている。具体的には、公が果たしている役割の中でも私立幼稚園に担っていただけのもについては財政的支援も含め、十分協議・検討した上で、市内の全幼稚園園児の八割が通園している私立幼稚園に協力をお願いしている。今後とも私立幼稚園と協力体制を保ちながら、幼児教育の振興を図ってまいりたい』

質問 『公立幼稚園教諭の数と平均給与は』

答弁 『昨年度の幼稚園費の人員費総額は、四億四千万円余、職員五十三人で、一人平均年額八三〇万円余』

質問 『公立幼稚園の保育料適正化、見直しについて』

答弁 『保育料月額一百万円の設定、手続きの上では幼児教育振興審議会の答申で据え置くことが望ましいとのことから、妥当な額であるといえますが、公立幼稚園の維持に関する経費総額からは検討すべき課題と認識している。平成二十四年度、全庁的な使用料を見直す時期となるので、適正な受益者負担の導入を視野に入れながら検討する余地はある。来年度、幼児教育振興審議会で検討してもらおうことを考えている』

質問 『公立幼稚園の就園状況を伺う』

答弁 『公立八園の定員に対する就園率の平均は、六〇・四％、最も低い園は稲荷木幼稚園の二八・八％、最も高い園は塩焼幼稚園の九・二％である』

質問 『現在、三万五千円の園児補助金を増額する考えは』

答弁 『私立幼稚園に在園する園児の保護者に一律交付している。近隣の船橋市は三万七千円である。財政状況が厳しい中で、各種補助

事業も見直しの対象となっており、将来の日本を担う子ども達への投資としてできる限り継続できるよう努力してまいりたい』

## 事業仕分け作業 傍聴は自由

さきの六月議会で設置が決まった市政戦略会議のメンバー十五人と事業仕分けを担当する臨時委員十三人が正式に決まり、いよいよ本格的に市長の諮問に答える機関として活動することになりました。その手始めとして、来る十月二十三日(土)と二十四日(日)の両日、朝の九時半より市側から提案された二十の事業について、仕分け作業を行います。対象事業として提案された二十の事業の見直しについて、◎見直しが必要か ◎費用対効果はどうか ◎継続するかどうか ◎所期の目的を達成したのではないか ◎今後も市が行うべきか等について論議が交わされます。

そして仕分け結果は市の経営会議にかけられ結論づけられることとなり市長の判断で予算上の措置が図られます。傍聴は自由にできます。当日市役所三階までお出かけ下さい。

### ※対象事業の主なもの

- ①広報紙発行事業 ②市有バス貸出事業 ③ドッグラン運営事業
- ④IT講習会事業 ⑤シティセールス事業 ⑥敬老祝い金
- ⑦私立学校等補助金事業 ⑧菅平高原いちかわ村事業、外十二件

## 高齢者調査の結果は

- ◎市の戸籍に記載された百歳以上の方について調査した結果
- ◎戸籍上で百歳以上は…三六四人 (住民登録のある方…六十七人)
- ◎戸籍上の最高齢者は、慶応二年生まれの一四三歳です
- 現在市内の百歳以上は一〇八人で、最高齢者は一〇七歳の女性です。

## 市政報告会と歌の競演 (予告)

十二月十二日(日) 午後一時半～四時 原木幼稚園講堂  
で松永おさみの市政報告会と民謡・コーラス・童謡・叙情歌等のつどいを開きます。ぜひ予定して下さい。お待ちしております。